

みどりの杜俳句会

さはやかや窓辺の風に身を置けり

佐山けさ子

涼風の途切れては葉のひるがへる

高橋 きみ

朝涼し窓を開けば溪の風

飯野 トヨ

葉草湯タオルに絞り汗を拭く

馬場 芳

衣類整理少し動くも玉の汗

田村 好子

我庭に梅を干す香や懐しき

飯野はつ志

旧道に鹿の出てをり夏の朝

高橋 ツ子

日照り続き畑の草の萎れけり

山崎 才子

目覚むるや前山に蟬高く鳴く

鈴木 啓子

蟬しぐれ窓辺に演歌口ずさむ

吉田 愛子

萩の花土手に下がりてうすピンク

飯野 トヨ

山空の花火の映り子の瞳

神田 昌美

休耕の畑一面や黄コスモス

金子 圭輔

短髪にパーマを軽く盆用意

岩崎 真人

間伐の竹林涼し風通る

小宮 勉

朝取りの胡瓜かじりて一休み

野口利江子

小判草細き莖垂れ庭に増ゆ

関口 侑子

大葉子の花村道に広ごれり

岡部富美子

スーパ―に極早生みかん未だみどり

千野さき子

秋暑し村道猿の走り抜け

土屋 厚子

鬼やんま軒の手桶の水を打つ

初雁 功子

水口に映り受粉の稲の花

山田 美子

白石短歌会

ゆく雲の秋色に染まる日もなくて

大型台風次々と来る

山高く水豊かにて稲穂垂る

紺碧の空仰ぐ日輪

庭に咲くギボウシの花すだれ越しに

眺めて季の移ろうてゆく

亥の餌食免れ大岩の

上に咲く山百合に喝采

渡邊阿里子

白石 礼子

白石 礼子



人権シリーズ

『人権感覚』

何年か前の研修会で、聞いた話です。

「大学病院に、ある腕利きの外科医が勤めていました。

ある日のこと、看護師から緊急の連絡がありました。

『先生、交通事故にあった患者さんが、今、運ばれてきました。

事故にあったのは、父親と息子さんの親子2人です。父親

は重体、息子さんも大けがです。』

『わかった、すぐ行く！』

するとそこには、大けがをした男の子が横たわっていま

した。医師はその男の子の顔を見た瞬間、驚いてしまいま

した。その男の子は、医師の息子だったからです。しかし、

父親は事故にあつて、確かに重体とのことでした。これは

一体、どういうことでしょう。』

そのとき、私の頭の中に「何で父親が？」という疑問が

わいていました。

講師の方が、「外科医＝男性と考え、『おやっ？』と思っ

た感じが、『多様性に対する開かれた心』という価値的側面

が身につけていない。」と話されました。その話を聞き、自

分自身まだまだ人権感覚が身につけていないということ

痛感しました。

人権教育は「人権に対する知的理解」だけでなく、その

後の行動に結びつける「価値的・態度的側面」と言葉がけ

や行動の「技能」の2つの側面を合わせ、その3者をバラ

ンスよく身につけ、人権感覚を育成していく必要があると

されています。

学校では、このような人権感覚を身につけ、自分の人権

と他者の人権を守るための実践行動ができる生徒を育てて

いきます。

東秩父村立東秩父中学校長 志田 隆之

参考文献

「人権感覚育成プログラム(学校教育編) 第2集」

埼玉県教育委員会